

THE Y S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2017~2018年度 No.233

6月 月報

那須クラブ会長 主題
地域につなげ那須ワイズ

強調月間：評価



5月(塩谷キャンプ場訪問)例会 5月31日 於：塩谷キャンプ場メインロτζ前

2018~2019年度 主題

国際会長：(IP) Moon Sang Bong (韓国)
「私たちは変えられる」

アジア地域会長：(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)
「ワイズ運動を尊重しよう」

東日本区理事：(RD) 宮内 友弥(東京武蔵野多摩)
「為せば、成る」

北東部長：涌澤 博(仙台青葉城)
「チャンス到来 われら北東部から世界へ」

クラブ役員 事務局

会長：河野 順子

副会長：村田 榮也
田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田・鈴木

担当主事：藤生 強

ブリテン：田村・村田

5月例会データ (出席率：100%)

在籍者 6名

例会出席者 5名 ネット 2名

YMCAスタッフ 2名

マイクアップ 1名

今月の聖句

炎のような舌分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霧”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話し出した。

使徒行伝 2：3~4

6月 Happy Birthday

鈴木保江

子育て奮闘記第6弾

今日の特集は、鈴木家の次男坊です。今年、五年生になりました。お兄ちゃんにもまれながら元気に育っています。ママに似て少しぼっちゃりしてきましたが、最近は一週間でバスケットボールに夢中です。帰ってくると今日はゴールできた、パスが回ってきたなどおしゃべりしているため寝る用意まで時間がかかりますが、夢中になっていることを一生懸命話をするのが楽しそうです。私の余裕がなくじっくり話を聞いてあげられないのが申し訳ないと思っています。また、最近自転車部で競技会があり、補欠なんだけど出られる、準備は何をするの、着替えは、集合時間は何時など自分から聞いてきます。自分から聞くことができるようになり少し成長を感じます。もともとお兄ちゃんより体を動かすことが好きでいろいろと興味をもちチャレンジしています。家に帰ってくると疲れて早く寝てしまいますが、朝もゆっくりです。私が朝ご飯は？と聞くと何があるか聞きますが、食べたいものだと布団の中からグーサインをします、なんてことと思いますが、そのグーサインがかわいいもんです。

悩みの種は、やはりゲームでしょうか、朝から晩までやっています。お兄ちゃんには負けますが、あれやこれやと負けじとやっています。時々ゲームより楽しいことをしようと家族でクイズ番組をみたりはしますが、いろいろ答えを出そうと自分の持っている知識をフルに活用し答えています。まだまだですが答えることはすごい。

次男坊は要領がいいといわれますが、なんとなく行動が慎重ですね。そこはなんとなく理解できる場所ですが弱点は「どうせやつてもできない」と初めからあきらめてしまうことです。その性格はなかなか抜けませんが、自分なりに頑張っていることもあり応援しています。意外とお兄ちゃんより器用かもしれません。

鈴木家の次男坊の成長をゆっくり見守り中ですが、私自身の余裕のなさを実感しています。毎日これでいいのか自問自答ですが、自分が楽しんでいることを子供たちにも伝えていきたいと思えます。2人の子供の成長を皆さんで見守ってください、私ももう少し子育て頑張ります。とりとめのない話でしたが、子育ては面白いですね。

日時：2019年5月31日(金)午後1時30分～午後3時

場所：塩谷キャンプ場

参加者：河野、田村、藤生、原田、村田の各メン。原田、村田の各メネット。YMCAスタッフ2名。合計9名

5月例会は、「YMCA塩谷キャンプ場の視察」を目的に塩谷キャンプ場にて行いました。ブリテン前号の巻頭言でも紹介した様に、東日本大震災による福島原発事故発生時に漏れた放射線物質は風に運ばれ栃木県にも影響を与えました。塩谷キャンプ場の位置する地域も周辺と比べても高い数値が表示され、塩谷キャンプ場は子ども達の野外活動を主に行っていたこともあり、大事を取って使用を休止しました。放射線物質数値が高いとは言っても国が示した安全な数値内ではあり少し数値が落ち着いたら再開されるはずでしたが、放射線に対する考えや捉え方は千差万別あり、YMCAとしても再開の機会を掴めずに8年の月日が流れ今に至っています。そしてキャンプ場は篠竹などによって荒れ放題となっていました。

昨秋開催されたとちぎYMCA40年記念会にて原田ワイズが早期再開を呼び掛けたことに応じて、この春からスタッフやボランティアリーダーの有志による整備ワークが始まり、4月末28日に行われたワークには15名が参加しました。

那須ワイズはワイズ活動エリア内に塩谷キャンプ場が位置するということもあり、ワイズ設立時から塩谷キャンプ場をサポートしています。ボランティアリーダー達に刺激を受け、久々にキャンプ場にて例会を行いました。ミニキーボードの伴奏に合わせてキャンプ場に響き渡る「ワイズソング」は感慨深いものがありました。

その後、整備ワークを数回行ったフィールドを視察し、再開への課題を確認したり、再開へ向けた大まかなスケジュールを検討したりしました。そして子ども達が豊かなキャンプ活動を得られるようとの願いから、「クルミ」「梅」「柿」の実のなる木の苗を2本ずつ計6本準備し、整備が進んだ時点で植えられるようにキャンプ場内に仮植えしました。

例会に出席したYMCA野外活動担当スタッフからは、秋にリーダートレーニングを行うため今後数回ワークに入る予定とのお知らせがありました。

キャンプ場再開に向けた一歩を示すことが出来た例会となりました。

宇都宮ワイズメンズクラブ40周年記念式に参加して

会長 河野 順子

我が那須クラブの親クラブである宇都宮クラブの40周年記念事業が、5月17-18日に行われた。諸事情で18日の式典と祝賀会だけに参加させていただいたので、その時の感想を報告する。

18日の式典の場所は、宇都宮市美術館の講義室であったが、暑い日であったにもかかわらず緑豊かな会場で、懐かしい方々にお会いでき、式典までの間にもゆっくりした話ができて、楽しい機会を与えて頂いた。

40年の歴史の中では、今も活躍されているベテランメンバーがおられ、その中に那須クラブの原田時近氏と田村修也氏がチャーターメンバーとして紹介された。まさに栃木県のワイズメンズクラブ4ヶ所を生み育てた先輩たちであり、誇りに思え、感謝である。式典の先輩たちからのあいさつからは、その当時の懐かしい話を聞き、尊敬と共鳴を感じた。記念式典は、次期会長の本多氏の閉会点鐘で閉じられた。この40周年記念時の会長は、現在、YMCAとワイズメンズクラブの協働を主導しておられる山田公平氏であったのも、宇都宮クラブの強みであったろうか。

追加として、次のプログラムは、落語会であった。宇都宮クラブ青木メンの後輩であり、青木氏は大学落研同窓会会長であったとか。青木氏のいつもの名司会の産湯がここにあったかと納得した。

追加のその2は、祝賀会で美味しいごちそうをたっぷり頂いて、暮れなずむ宇都宮に一足お先に失礼した。那須クラブの誕生のために当時、那須地区までおいで下さった十合さんや何かと知恵を与えて下さった船津さん、上野さんたち、親クラブの皆さんに感謝！この活力を、那須クラブに持ち帰った気分。40周年おめでとうございます。

那須クラブよりの参加は、河野、田村、原田、鈴木、村田、藤生各メン、原田、田村各メネット。

6月第2例会（役員会）報告

日 時：6月7日（金）午後12時30分～

場 所：ココス西那須野乃木店

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、平山YMCAスタッフ、

協議事項

1. 6月例会の件

塩沢総主事を囲んで那須YMCAの活動の今後につ

いて話し合う。6月21日（金）午後1時30分から、西那須野教会にて行う。茶菓の準備を行う。

※後日塩沢総主事の都合で、6月28日（金）に変更になった。

2. 7月例会の件

7月25日（木）午後6時30分より、キックオフ例会（クラブ総会）を行う。場所としては、西那須野教会を第1候補とする。

3. チャリティーランについて

第14回とちぎYMCAチャリティーランに、20,000円の寄付を行う。6月23日（日）午前10時開会式、道の駅「ろまんちっく村」にて開催。那須クラブとしては、シイタケ昆布の販売を行う。村田が参加。シイタケ昆布50個持参。

4. 7月ブリテンより、例会の内容を入れるように工夫をする。

5. 7月第2例会（役員会）について、7月5日（金）午後12時30分からココスで食事をとりながら行う。

6. その他（今後の予定）

・第22回東日本区大会の報告が村田よりあった。2019～2020年度の次々期理事として、宇都宮ワイズの久保知宏ワイズが選出。宇都宮ワイズの十河弘ワイズが奈良伝賞を受賞。

・村田の交通費補助、20,000円とする。

・第28回アジア太平洋地域大会 7月19日（金）～21日（日）（仙台国際センター）河野会長と村田副会長が参加予定。21日（日）の午後、仙台国際センターにおいて北東部会が行われる。

第22回東日本区大会報告

副会長 村田 榮

去る6月1日（土）・2日（日）に、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。那須ワイズを代表して参加しました。出席者は約400名でした。前日の那須ワイズの例会時に左ひざを痛めて大変痛かったが、役目を果たすために無理して参加した。バナーセレモニー、開会式といつもの通りのスケジュールでスタート。宮内理事の開会宣言・点鐘、来賓あいさつ、12名のメンバーメネットのメモリアルアワー。東日本区アワー1（理事年次報告、年次代議員会報告、部長・その他報告、奈良伝賞授与式）の中では、2019～2020年度の次々期理事に宇都宮ワイズの久保 知宏ワイズが選出。今年度の奈良伝賞は、甲府ワイズの大澤 英二ワイズと宇都宮ワイズの十河 弘ワイズに授与された。

休憩をはさんで記念講演森重昭氏の「もう一つのヒロシマ、灯籠流し」の時間で映画を見て、同氏のお話を聞きたいと思い参加をしたが、ホールの冷房がよくきいおり痛めた足がさらに痛くなり、途中退席をせざるを得ませんでした。本当に残念でした。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第74回）

田村修也

以前に品川開拓の記載をしました際に、農場管理者として船津さんのことについて記載いたしました。群馬の著名な農民指導者老農船津さんのことで、宇都宮の船津翔ワイズの所縁の方と紹介いたしました。

しかしながら、この度、宇都宮ワイズ40周年記念式の際に同席いたしました時に、その件を確認いたしました。船津さんからは、私は関西の土族の船津で、群馬の船津とは所縁がありませんとお話でした。足利の諏訪ワイズのお話がありましたので、そのように認識しておりましたが、確認不足でした。改めて訂正させていただきます。

さて、工事は延長四里半（18km）にも及ぶ大水路を、短期間に完成するというものでしたから、工事に従事する労務者も相当な人数になりましたので、工事事務所のある箕輪村は大変な騒ぎでした。同村の人見倉治さんは、当時19歳でしたが、状況を語った話が残っておりますので、ご紹介いたします。当時の様相を推測出来ることと思います。「疎水工事請負人は、三谷長吉といって60余才、東京下谷区の土木請負業者で、実際の現場監督は、その弟の三谷竹次郎であった。工事の検査官は、内務省技師羽根田某氏、工事は下請負も相当渡していた。当時箕輪は、22戸、洞島の3戸の農家に、約30人の土工が分宿していた。そのうち2戸の農家には、2百人の囚徒がいたが、いずれも、日夜鎖にて2人ずつ繋ぎ作業していた。一般の人夫も、全部土地者ではなかった。彼等はそれぞれ夜具等は自弁していた。熊川と蛇尾川の暗渠工事は、大宮敬次郎という人が請け負った。石工は、遠く九州から一団となって来ていた。石は鴨内から切り出した。何分大工事であったから、それはそれは大変な騒ぎであった。通水式の時に、舟が下るといので、土地の百姓衆はそれを見ようと、大変な騒ぎであった。白河まで9里のみちのりだが、金の支払いや、至急の打ち合わせのため、東京へ電報を打つため、村の人が臨時に雇われて、大抵は昼夜兼行の飛脚であるため、健脚の者が雇われ、一回往復で75銭で、割がよいので、村人は競ってこれに応じたが、いつも健脚者が、よく選ばれるので、仲間内に不平もあった。当時この部落付近では、米は全く取れず、買い物はすべて四里先の大田原まで、行かなければならなかった。自分は、測量の道具かつぎ等の人夫、8~9人を集めて差し出す任務を持っていたので、その分の会計もやっていた。工事が終わって、なお予算が余ったの

今後の予定

・第22回東日本区大会

日時：6月1日（土）から2日（日）
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

・6月第2例会（役員会）

日時：6月7日（金）午後12時30分から
場所：西那須野ココス乃木店

・6月第1（YMCA報告会）例会

日時：6月28日（金）午後1時30分から
場所：日本キリスト教団 西那須野教会

| | | | |
|--------------------------------------|----|-----|-------|
| 例会プログラム | 司会 | 副会長 | 田村 修也 |
| 開会挨拶・点鐘 | | 会長 | 河野 順子 |
| ワイズソング | | | — 同 |
| ワイズ信条 | | | — 同 |
| 聖書朗読・祈禱 | | 司会者 | |
| ゲストスピーチ 「とちぎYMCAと那須YMCAの現状と将来計画について」 | | | |

| | | |
|---------|--------------|--------|
| | とちぎYMCA総主事 | 塩澤 達也氏 |
| 諸報告 | 那須ワイズ、那須YMCA | |
| YMCAの歌 | | — 同 |
| 閉会挨拶・点鐘 | 会長 | 河野 順子 |

・7月第2例会（役員会）

日時：7月5日（金）午後12時30分から
場所：西那須野ココス乃木店

・第28回アジア太平洋地域大会

日時：7月19日（金）～21日（日）
場所：仙台国際センター

・第28回北東部大会

日時：7月21日（日）
場所：仙台国際センター

・7月第1例会（ワイズ総会・キックオフ）

日時：7月25日（木）午後6時30分から
場所：日本キリスト教団 西那須野教会（予定）

で、要所々に亀腹を張った。自分も1か所請け負ってやり、大分もうかったと喜んでいたら、羽根田監督が、鉄棒をもって検査して歩き、少しでも不良の箇所は、容赦なく掘り起こして、やり直させられたので、結局損をした。印南翁は、背のすらりとした、あまり細かなことはいわぬ人だった。矢板さんは、財産も有り、よく気がつき、決して人々をその場で叱るようなことはしなかった」というものです。

印南さん、矢板さんのひととなり、窺い知ることが出来ます。

さて、この工事については、本幹水路、即ち岩崎引入口から、観象台まで政府で開鑿してくれれば各支線は、受益者が、自費で掘鑿するという予定でしたが、いよいよ実際になってみると、その支線といえども各延長は二里(約8km)以上に及ぶので、受益者負担も容易なことではありません。そこで、開墾各社は、5月25日に三島肇耕社に集まって、協議した結果、東西両原に各2線ずつの支線を、官工事として掘鑿を請願すること、及び、そのためには、各分水の水量を、決定しなければならないので、これもまた協議した結果、以下の要領で支線の水量を決定いたしました。(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

園庭は、新緑がきれいです。砂場のぶどうも動物小屋横のくるみの実も成長しています。栗の花も咲きました。毛刈りを終えた羊たちも一回り小さくなって涼しそうです。2回目に生まれた子ウサギたちも自分で、葉を食むことが出来るまでに成長しました。ウサギは全部で11羽になりました。欲しい方がいらっしゃいましたら成長を待ってお譲りします。連絡帳にてお知らせ下さい。

5月29日(水)に郡上踊りで有名な岐阜県郡上市の市議員文教委員会の視察がありました。郡上市と本市は歴史的な関わりがあります。幕末に郡上藩から脱藩し旧幕府軍側に組織された凌霜隊(りょうそうたい)が、所属していた旧幕府軍津藩の命に反し、牡丹寺として有名な妙雲寺を焼き払わなかったということです。

さて、今回の郡上市議会議員視察の趣旨は主に放課後児童クラブの見学です。また、市議員の視察2日目として、本園の幼稚園、児童発達支援センターシャローム、保育園、インクルーシブ教育につい

ても視察しました。1時間の滞在予定でしたが、施設見学で45分、説明・質疑応答で1時間15分の計2時間滞在されました。郡上市議の皆様は、党派を超えて熱心でした。なお、郡上市のホームページのトップ画面は子どもたちです。

子ども子育て支援法では、市が実施責任主体になります。同じ国民ですが市町村の格差がでます。国の用意したプログラムに市が手を挙げないと(一部負担)、各個の施設ではプログラムに参加できません。今回の市議員の視察1日目は、大田原市役所でした。たとえば、大田原市の学童クラブは、学校単位で民営化の方針です。民設の児童クラブ設立にあたっては、100万円の支度金と国の補助金を利用した家賃補助が最高月額25万円支給されます。民営化は学校単位なので、民間が参入し競争原理によるサービスの質の向上が期待できるシステムです。多額な建築費用もかかりません。

一方、那須塩原市は公設民営を推進し、学校に放課後児童クラブの建物を建築することに力を入れてきました。25ヶ所の公設民営児童クラブを一つのNPO法人が指定管理で運営しています。この規模になると民間といっても大企業、普通の民間は参入できません。民設民営は19ヶ所で支度金や家賃補助もなく運営しています。利用料金も本園の学童クラブは月額11,000円(送迎込み)になり、建物の費用がかからないこともあるのか公設民営は7,500円です。同じ市民税を払っているにもかかわらず、子どもの利用料金に差が出ています。

来年度の4月に向けて、市町村版の子ども子育て支援計画が策定されようとしています。日本はアメリカ、ドイツ、イギリスに代表される生の偶然性、どのような経済状況の家に生まれるかによって、その子どもの人生がある程度決定されると言われています。親の貧困の連鎖が起きています。子どもたちが家庭の経済状況によって、自己選択という形で、進学しないことも報道されています。

年金不足2,000万円の報道がされていますが、2007年生まれの子どもの平均寿命が107歳との調査報告がマックス・プランクとカリフォルニア大学から出されています。

自治体である市町村と協力して、「どの家庭の子どもたちも人生の確実なスタートが切れるように努力すること」が、認定こども園の一つの役割です。

学校法人アジア学院だより

学校法人 アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校
校長 荒川 朋子

濟州島4. 3事件

皆さんは1948年～54年の間に韓国濟州島で起きた「4. 3事件」という事件をご存知だろうか。私は5月の末に韓国濟州島で開催された北東アジアキリスト者和解フォーラムに参加し、その中でこの事件のことを詳しく学ぶ機会を得た。

濟州島4. 3事件とは、「1948年4月3日に在朝鮮アメリカ陸軍司令部軍政庁支配下にある南朝鮮の濟州島で起こった島民の蜂起に伴い、南朝鮮国防警備隊、韓国軍、韓国警察、朝鮮半島の李承晩支持者などが1954年9月21日までの期間に引き起こした一連の島民虐殺事件」を指す。「南朝鮮当局側は事件に南朝鮮労働党が関与しているとして、政府軍・警察による大粛清をおこない、島民の5人に1人にあたる6万人が虐殺され」「濟州島の村々の70%が焼き尽くされ」と言われている。(出典:Wikipediaより)

朝鮮半島の日本の統治からの解放が1945年、朝鮮戦争が1950年。4. 3事件は朝鮮半島を揺るがす大きな歴史の転換点に起きた、小さな島の悲劇だ。更に悲しいのは、この事件が30年近く隠されてきて、韓国政府主導で真相究明の動きが始まったのは、韓国の民主政権樹立後、事件から半世紀も経過した頃であったということだ。また、島民の中にも南朝鮮当局側の人間(政府軍・警察等)がいて、これが島民対島民という対立の構図を生み、事件の複雑性、特殊性を生み出したと言われている。

私たちフォーラムの参加者(韓国、日本、中国、香港、台湾、アメリカからの約90名)は、被害の最も大きかった村の一つ、ハギ村という村を訪問し、そこで行われたユニークな和解のプロセスを村民議会のメンバーから直接聞くことができた。この紙面でその全てを書くことはできないが、概要と私が感じたことを簡単に記したいと思う。

ハギ村は、4. 3事件の記憶からいい印象をもたれることはなかったという。やがてハギ村出身というだけで就職すら難しくなり、村人から村名を変える要望が出た。そうして村名を2度変えるものの、今度はそのことで村のアイデンティティを巡って村民間で対立が起る。元々プライドやアイデンティティが強いことで有名な島なので、やがて一部の村人から村名奪回運動が起きる。

村人は、そのためには4. 3事件の被害者、加害者の思いが一致しないと、つまり事件の悲劇を乗り越え和解が成立しなくてはならないと考えた。そして敵も味方もなく、4. 3事件で命を落とした全ての村人のために共同の碑の建設を決意した。今から約30年前のことだ。村議会の議員が村の家庭を1件1件回り、共同碑の建設の意義、募金、合わせて村名復元の意味を説得して回る。それを忍耐強く10年間も続け、ようやく2000年に碑の建設と村名の復元を成し遂げるのだ。

この村で起こった和解の特殊性はたくさんある。延世大学の教授が現地で分析を発表してくれた。まず何よりもこれが政府主導でなく、村人の自発的な動きであったということ。それにより、住民がこの事件を自分たちの島の長い歴史の中の特殊な事象として捉えようとしたこと。つまり、島の中の小さな構造によってこの時間が生まれたのではなく、事件の裏にある島の外部の「権力」構造を見出し、加害者となった住民をも「被害者」と認識することができたことだ。さらに政治思想の善悪ではなく、人間の悲痛、和解されるべきものとして事件全体をとらえようとしたことだ。「私たち皆が被害者」なのだから、何としても平和を取り戻さないといけない、そういう叫びにも似た思いがあったのだろう。和解をするとういことは、様々に違う立場に置かれた人を理解し受け入れ、相手ももう十分に苦しんだことを認め、自分のアイデンティティすら変えることを意味する。これは容易なことではない。でもこの村の人々はそれを行った。70年以上背負ってきた悲痛の日々は、いくらなんでももう自分たちで終わりにすべきだと思ったからに違いない。

YMCAだより

【とちぎYMCAサマープログラム始まります!】
6月18日(火)より、サマープログラムの募集受付が始まります。今年は宿泊キャンプやデイキャンプで海・山・川など夏を楽しむ企画が盛りだくさん



です。是非、沢山の方にお誘い頂きご参加をお待ちしております! WEB受付
(予定): 6/18
(火) 10:00~

【第14回とちぎYMCAインターナショナル・チャリティーラン2019】

また今年もチャリティーランが開催されます！当日のランナー、物品寄与、運営ボランティア等を募集しております！是非皆様のご参加をお待ちしております。又、那須ワイズメンズクラブより寄付金を頂いております。毎年のご協力・ご支援どうもありがとうございます。

日時：6月23日（日）9：00～14：00



場所：ろまんちっく村
主催：公益財団法人とちぎYMCA ワイズメンズクラブ（宇都宮・宇都宮東・足利・那須）

【とちぎYMCA・那須YMCA 6月の予定】

サタデークラブ

6/8・22 アスレチック@八幡山公園

6/29 クッキング@西那須野幼稚園

Yキッズ

6/9 陶芸体験（絵付け）@小峰窯

6/23 第14回チャリティーラン@ろまんちっく村

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前（リーダー名） 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは？ 5. 思い出に残った活動とその理由は？ 6. 今後の進路は？ 7. YMCAに一言



①高橋 亜由音 あゆ～ん

②国際医療福祉大学
保健医療学部 言語聴覚学科

③栃木県 宇都宮市

④弟がYMCAの活動に参加していたのがきっかけで関わるようになりました。私は小学校の頃からずっとYMCAが大好きでした。高校生から国際系の活動にも参加するようになり、人としてとても大きく成長することが出来ました。大学に入学し、那須YMCAがあると知り、「あゆ～んが大好きなYMCAをもっと多くの人に好きになってもらいたい！」

「もっと人として成長したい！」「多くの人の笑顔が見たい！」など、言いきれないほどたくさんの思いがあり、ぜひリーダーとして活動したいと思い、那須YMCAに入りました。

⑤たくさんの活動に参加してきてどれも自分にとってとても大切な思い出なのでひとつ選ぶのは難しい

ですがフィリピンスタディーキャンプが特に思い出に残っています。このキャンプのおかげで私は変われました。特に、いろんな人達と会えたことが一番の思い出です。現地のキャンパーはもちろん、プログラムに参加してくれたたくさんの子供達、街の人、ライフハイブンの人たち、そして日本人キャンパー達。このキャンプで出会った全ての人のおかげでいまの「あゆ～ん」がいると言っても過言ではありません。私はこのキャンプでたくさんの優しさ、温かさそして愛情を貰いました。人は人に優しく接してもらえるだけで幸せになれるのだと身をもって感じました。そして、自分もどんな人にも優しく温かく愛情を持って接したいと心の底から思いました。それまで特に何も考えず人と接していましたが、帰国してから、あゆ～んはできる限りの愛情を持って周りの人に接しています。少しだけ周りの人の笑顔が増えた気がします。Happyが増えた気がします。このようにあゆ～んの心持ちを変えてくれたフィリピンスタディーキャンプに感謝しています。また機会があれば行きたいです！

⑥卒業後は言語聴覚士の国家資格を取り、数年日本で働き経験を積んだ後に海外で活動したいと考えています。できれば、1箇所にとどまらず世界各国を回り、助けが必要な人の力になりたいです。そして、言語聴覚士としてだけではなくひとりの人間として助けが必要だと言われればできる限り力になりたいです。（ボランティア活動などのことです）これはあくまで現段階で、「空想、夢」でしかないので実現は難しいと思います。おそらく100%無理だと思えます。ですが、これが実現しなかったとしても助けが必要な人が1人でも多く救われる、助かる様になるにはどうすればいいかを考えてそれをアウトプットすることは一生辞めたくないと思っています。

⑦ほんとに多くの経験をさせて頂き、ありがとうございます！YMCAに出会えたおかげで人生変わりました！大袈裟じゃないです！これからも、様々な活動に参加し自分の可能性を見つけたり、多くの人に良い影響を与えたいと思っています。これからも末永くよろしく願います。大好きです。